

課題の4 タマネギのセルトレー段積み法による出芽率向上試験（新規）

タマネギを播種したセルトレーを段積みすることにより、通常の育苗よりも出芽率が向上するという試験成績がある。

転作田等でタマネギを大規模に栽培するためには機械定植が必須となり、出芽率をより高める必要があることから、段積み法の効果を検証するために本調査を実施する。

1 調査内容

(1) 育苗環境 倉庫→温室

(2) 供試品種 ネオアース（カネコ種苗）

(3) 調査項目 トレー1段を対照区、調査区は3段積み、5段積みとし、その出芽率を調査

※調査区のトレーは乾燥防止のためシルバーポリトウで覆った。

(4) 播種日：8月30日

(5) 使用培土：育苗名人ガッチリくん

2 調査結果

タマネギの種子を播種した200穴セルトレーを1段、3段積み、5段積みとし、播種直後と3日後のトレーの重量、播種から7日後、11日後の出芽数及び出芽率を調査した。

播種7日後の出芽率は、3段積みが最も高く93.5%、5段積みが79.1%、1段が最も低く73.6%であったが、播種11日後の出芽率はいずれも90%を超え、1段が最も高くなった。

表1 トレー重量及び出芽率

	7日後 (9/6)		11日後 (9/10)	
	出芽数(本)	出芽率(%)	出芽数(本)	出芽率(%)
1段	147.3	73.6	189.0	94.5
3段積み	187.0	93.5	188.7	94.3
5段積み	158.2	79.1	183.2	91.6

3 まとめ

出芽率は、播種7日後では、3段積み、5段積みが1段よりも高くなったが、播種11日後ではほぼ差がなく、200穴のセルトレーでは段積みでなくても十分な出芽を確認できたことから、今回で調査を終了する。